

平成20年度事務事業評価表	担当	上下水道部 下水道浄化センター	内線等	8009
---------------	----	-----------------	-----	------

事務事業名	中水道（下水道再生水）利用事業			
総合計画、市長マニフェストでの位置付け (該当しない事業については記入不要です。)				
基本目標	2. 快適でやすらぎのあるまちづくり	施策名	下水道	
基本目標、施策に対する貢献度	3点 施策の達成に非常に効果があった			
市長マニフェスト	生活排水対策・快適な都市環境づくりのまちづくり			
市長マニフェストの執行状況	5点 概ね達成できた			

事務事業の内容

対象(受益者)	下水道浄化センター周辺公共施設に対して
手 段	水洗便所用水、散水用水及び修景用水等の雑用水としての給水設備を整備して
成果、目標	下水道資源である再生水の有効利用を図る。

成果指標

成果指標名	再生水有効利用率	収益率	
成果指標の説明	$(\text{再生水有効利用量} / \text{再生水処理能力}) \times 100$	$(\text{利用料金} / \text{事業費}) \times 100$	
指標の推移	平成19年度決算（実績）	平成20年度決算（実績）	平成21年度予算（計画）
成果指標	36.18%	36.86%	36.79%
成果指標	63.20%	62.73%	37.98%

事業の概要

項 目	平成19年度実績	平成20年度実績	平成21年度計画
再生水有効 利用量	46,216m ³ / 年	47,087m ³ / 年	47,000m ³ / 年
再生水有料 利用量	22,568m ³ / 年	22,514m ³ / 年	22,000m ³ / 年
再生水利用 料金	2,708,160円 / 年	2,701,680円 / 年	2,640,000円 / 年
再生水処理 能力	127,739m ³ / 年	127,739m ³ / 年	127,739m ³ / 年

事業にかかる人工

(単位：人)

人工計	0.20人	次長 課長級	0.10人	補佐級	0.05人	係長級	0.00人	一般職	0.05人	非常勤	0.00人	再任用	0.00人
-----	-------	-----------	-------	-----	-------	-----	-------	-----	-------	-----	-------	-----	-------

事業費 決算書、予算書に記載のある事業は決算書等の事業費を記載してください。(単位：千円)

人件費 を含む 事業費	事業費	2,552
	人件費	1,755
	合計	4,307
財源 内訳	特定財源	2,702
	一般財源	1,605

事業の仕分け

A 現行どおり市が実施	説明	利用料金の徴収などは、現行どおり下水道課庶務担当で行うが、平成22年度より施設の維持運転管理は民間業者に包括委託する予定。
-------------	----	---

総合評価

総合評価	B 事業の進め方に改善の余地がある
------	-------------------

改善点、問題点等

過去の改善点	平成元年4月、競艇場の水洗トイレに供給開始。平成6年4月、オゾン処理施設を導入し、市民会館、博物館、保健所、保健医療センター、三河港務所、浜町テニスコート、浄化センターの水洗トイレに供給開始し、現在は8箇所の公共施設で利用。現在に至る。
現在の課題、問題点	国の「下水処理水循環利用モデル事業」として国庫補助金を受け、平成元年4月、蒲郡市中水道施設を供給開始しました。国の補助を受けたことから30年間の施設維持が義務づけられています。しかし、競艇場の需要が減っており、今後も需要増が見込まれないこと 施設の老朽化が進み、各種設備・機器の更新も迫っており、これらに対処するには高額な費用がかかること等の理由から「30年の期限が過ぎる平成31年には中水道設備の廃止」ということも検討していかなければならない。
今後の改善計画	再生水の利用については、競艇場の利用率が77.2%と大部分を占めており、今後、競艇場がポルトウイングの改築やスタンドなどの施設改善等により再生水の利用を中止したときには、再生水設備の維持も難しくなる可能性があるため、しばらくの間は高額な設備改修は見送りたい。